

第33回 維持管理・環境管理専門委員会
第5回 H30年度イベント実行委員会
2018年11月15日

H30年度の工事について

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

(1) 下池整備の目的とこれまでの経緯

【下池整備の目的（実施計画書より）】

- 『高木・壮齢樹化しているハンノキ等の河畔林においては、間伐、下刈り、盤下げ、移植等を行うことにより、ハンノキ等の河畔林の萌芽、生育適地についての知見を得るとともに、多様な樹齢の樹木が生育する河畔林を保全・再生する。』

【下池整備地の掘削場所・深さの決定】

- 第29回協議会において下池整備地の掘削場所が、第40回協議会では掘削高が承認されました。

掘削場所：シンジュとマダケの繁茂が著しく、放置できない場所（現在の掘削予定範囲）

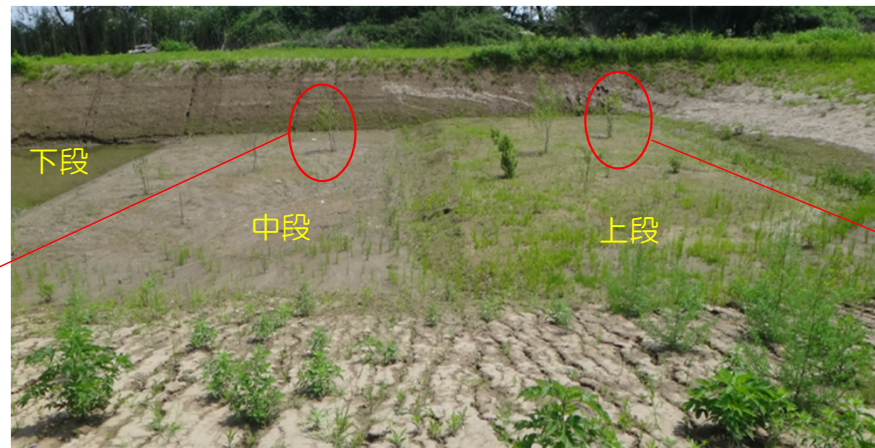
掘削深さ：下池試験掘削地（H26整備）の3段階の高さのうち、中段の高さ

⇒下段は常時冠水しているため生育不可であり、上段ではハンノキ幼木の生育を阻害する他の植物の侵入が想定されたことから、中段を基本的な掘削高さとする事が決定しました。

下池試験掘削地におけるハンノキ育成試験



下池試験掘削地（中段）
に試験移植したハンノキ



平成27年6月15日撮影



下池試験掘削地（上段）
に試験移植したハンノキ

※ハンノキ幼木の生育を阻害する植物の侵入が想定されました。

(1) 下池整備の目的とこれまでの経緯

【H28年度の掘削】

- H28年度から、下池整備地の掘削が開始されました。
しかし、コンクリートガラ等の廃棄物が出てきたため、予定どおりの掘削ができませんでした。
- これを受け、第45回協議会では、「下池の掘削は、予算の範囲内で効果的な整備を行うために、コンクリートガラ等のゴミが埋まっていない他の場所を掘削する」との方針が出されました。

【H29年度の掘削】

- 試掘により、廃棄物が埋設されていないことを確認したうえで、水路に接続するよう上流側から掘削を行いました。

非表示

(2) H30年度以降下池掘削予定範囲の植物相確認と配慮方針

【H30年度以降掘削予定範囲における植物への配慮方針検討】

- 生物調査員による樹木確認を2回実施しました（4/12と5/14）。また、委員による現地確認を1回実施しました（5/17）。
- この結果を踏まえ、第30回委員会（6/14）では、「予定通り掘削する場合、移植すべき対象や掘削土砂の埋土種子利用の可能性があると想定されるため、低木や草本を含めた植物相全体の情報を確認しておく。」との意見があったため、掘削予定範囲とその周辺で生物調査員による植物相調査を実施しました（6/25）。
- 再度、委員による現地視察を実施し（7/20）、同日に開催した第31回委員会において、H30年度以降の掘削予定範囲における在来種への配慮方針を決定しました。

一部非表示

- 第32回委員会（9/4）で上記を再確認し、第48回協議会（10/16）に提案し、了承されました。

<委員による現地確認>

非表示

(3) H30年度工事における植物への配慮

非表示

非表示